



8月20日から9月12日まで静岡県においても緊急事態宣言が発令され、新型コロナウイルス感染拡大防止へ向けた特段の注意喚起と予防対策の徹底が要請されています。昨年来続く行動自粛のお願いに、誰もが心身共に疲れを感じていることと思いますが、現在の第5波といわれる感染拡大はこれまでに比べて変異型ウイルスの感染力が強く、油断できません。三島市でも7月末から感染者の報告数が急増し、これまでは少なかった若い方の感染や家庭内での家族間の感染が目立つようになっていきました。一方、4月からのワクチン接種が功を奏し、すでに9割の方が接種を終えた65歳以上の高齢者では感染が減少していることが報告されています。現在、12歳～18歳の方、19歳以上の基礎疾患のある方に加え妊娠中の方への優先接種を実施するとともに、30歳以上の一般の方にも予約の受付を開始しています。ワクチンの接種がより広い世代に行き渡り、たとえ感染しても重症化しにくいという状況になると、私たちの生活も新しい局面を迎えて街には活気が戻ってくるものと期待しています。

今は、感染予防対策をもう一度しっかりと行うことが何より大切です。皆さんも必ず出口はあることを信じて、一人一人が自分のためにもうひと頑張りしてまいりましょう。

三島市長 豊岡 武士

富士山南東スマートフロンティア推進協議会 ～三島・裾野・長泉 2市1町広域連携の取り組み～

8月18日(水)、裾野市と長泉町、三島市の2市1町で構成する「富士山南東スマートフロンティア推進協議会」が発足しました。この協議会は、少子高齢化や行政のデジタル化など、様々な地域課題の解決に向けて2市1町が一丸となって取り組みを進めるとともに、民間事業者との連携や先進技術の活用などを検討することを目的として、三島市の呼びかけに応える形で設置されたものです。

各市町で進めている「スマートウエルネスみしま」(三島市)、「スソノ・デジタル・クリエイティブシティ」(裾野市)、「スーパーテレワーク・コンソーシアム」(長泉町)などの施策で得た知見を共有するなど、広域連携により事業を効果的に進めながら、地域の魅力向上や移住定住、経済活性化、暮らしやすいまちづくりを促進するための具体的な計画の策定を目指していく予定です。

2市1町は、平成28年4月に「富士山南東消防組合」を発足して消防行政の広域化を図り、安心・安全な暮らしを守り災害に強い、効果的・効率的な消防体制を確立しました。今回の協議会においても、自治体の垣根を超えた広域連携を加速させ、新しい時代を生き抜くための地域創生のモデルとするようしっかりと取り組むことを確認し、今後の計画の進展に期待を込めています。

「『三本の矢』を束ね、魅力ある地域づくりを可能に」(豊岡市長)

「互いの強みを生かし、東京一極集中を是正したい」(裾野市長)

「アイデアを出し合い、新たな取り組みを実現する」(長泉町長)

三島市長 〒411-0035 三島市大宮町2-14-20
豊岡たけし後援会事務所 TEL 055-976-2160 FAX 055-976-2159
E-mail : toyotake@mail.wbs.ne.jp
ホームページ <http://www.toyooka-takeshi.jp/>

新型コロナウイルス感染症の“いま”の知識

(新型コロナウイルス感染症について／厚生労働省 より抜粋)

Q 新型コロナウイルスに感染した人が、他の人に感染させてしまう可能性がある期間はいつまでですか。

A 新型コロナウイルスに感染した人が他の人に感染させてしまう可能性がある期間は、発症の2日前から発症後7～10日間程度とされています。また、この期間のうち、発症の直前・直後で特にウイルス排出量が高くなると考えられています。このため、新型コロナウイルス感染症と診断された人は、症状がなくとも、不要・不急の外出を控えるなど感染防止に努める必要があります。

Q 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、どれくらいの人

A 新型コロナウイルス感染症と診断された人のうち、他の人に感染させているのは2割以下で、多くの方は他の人に感染させていないと考えられています。このため、感染防護なしに3密(密閉・密集・密接)の環境で多くの人と接するなどによって1人の感染者が何人もの人に感染させてしまうことがなければ、新型コロナウイルス感染症の流行を抑えることができます。体調が悪いときは不要・不急の外出を控えることや、人と接するときにはマスクを着用することなど、新型コロナウイルスに感染していた場合に多くの人に感染させることのないよう行動することが大切です。

Q 新型コロナウイルス感染症を拡げないためには、どのような場面に注意する必要がありますか。

A 新型コロナウイルス感染症は、主に飛沫感染や接触感染によって感染するため、3密(密閉・密集・密接)の環境で感染リスクが高まります。このほか、飲酒を伴う懇親会等、大人数や長時間におよぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わりといった場面でも感染が起きやすく、注意が必要です。

※ 知っているつもりでも、繰り返し確認し、注意しましょう！

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

◎飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また聴覚が鈍化し、大きな声になりやすい。

◎特に敷居などで区切られている狭い空間に長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。

◎また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

◎長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では短時間の食事と比べて、感染のリスクが高まる。

◎大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。

場面③ マスクなしでの会話

◎マスクなしに近距離で会話をするすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。

◎マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている

◎車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。

場面④ 狭い空間での共同生活

◎狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。

◎寮の部屋やトイレなどの共有部分での感染が疑われる事例が報告されている。

場面⑤ 居場所の切り替わり

◎仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により感染リスクが高まることがある。

◎休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

